

竹田陽一の経営随筆集

2022年11月22日 第39号



学校における、いじめの解決策 その2

前号では、小学校や中学校で起きるイジメによる被害を、いかにして根本的に防ぐか、その必要性について説明しました。

ではどうすればこれが可能になるのでしょうか。その方法はいくつもあるでしょうが、私は次のように考えています。

この物語は、ヨーロッパのある国の話です。ある家庭の父親が、ひどい病気になりました。この家庭があるのは人口が少ない小さな村で治療ができないため、父は遠く離れた所にある大きな病院に入院することになりました。

この父親には、小学6年生の男の子供がいました。父が入院したあとしばらくして、この少年は父を見舞いに行くため、父が必要とする下着などを持って出かけました。

病院に着いたあと、受付に入院している父親の名前を言って、見舞いに来たことを伝えました。

そのあとこの少年は、父が治療を受けている病室に連れていかれました。

入院している父はすっかりやつれていて、話もできない状態でベッドに横たわっていたのです。顔だちから、父ではないような気がしたのですが、この少年はその人につきそい、看病を続けて何日かが過ぎました。

ある日用事で病室を出て病院の廊下を歩いていたらうしろの方から、聞きなれた声がしたのでふり向くと、本当の父がいました。

父は病気が治ったので退院して、自分の村にもどるところだったのです。

少年は驚くとともに、父にこれ迄の事情を説明しました。

少年はまったく別の人を看病していたのです。こうなったのは、父の名前と同じ名前の人がもう1人いて、病院の受付係がこれを確かめず、病室に連れていったためでした。

詳しい事情を知った父は子供に、「お前が看病している人は病状がだいぶ悪いようだから、引き続き看病を続けてはどうだろうか」と言ったので少年はそうすることにしました。

それから数日後、少年の手厚い看護もむなしく看病していた人は亡くなりました。この人は全く知らない少年から、手厚い看病を受けたことにとっても感謝していたことでしょう。

この物語は73年前、私が小学4年生のときに国語の本に載っていたものです。

私はこの内容に感動し、その文章を何度も読んだことで、73年を経過している現在でもそのあらすじは今でも覚えています。

小学生や中学生に対してこのような人間愛に満ちた物語を、毎週1回クラスの全員が順番に1頁ずつ読んだあと、必要によって教師が解説して先に進むという教育をしています。

もちろん必要によって人間愛に満ちた良い物語は専門のナレーターに朗読してもらったあとこれをCDにし、全員に配って自宅で何回も聞いてもらう方法もあります。

こうしていけば、同級生の教科書を隠したり、机をよごしたりする「イヤガラセ」をはじめとして、イジメは減少するでしょう。

テレビの番組で、以前は大きな会社を経営していた人や多くの実績を出している芸術家で、今は引退している人の対談があります。

こういう人にインタビューをする人が、「これ迄の長い人生を振り返り、人間として最も重要なものは何でしょうか」と質問すると、ほとんどの人が「人間性や人間愛です」と答えます。

他人の人格を尊重したり他人を思いやる心は、人にとって特別重要であることについて、異論をとねえる人はいないでしょう。

ところが前の号で説明したように、学校の科目に人間性や人間愛を高めることに直接関係するものがないのです。

そして学校でイジメによる自殺者が出ると、イジメを受けている子供の親は、これに「早く気付く方法」についてばかり説明しているのです。

これも必要でしょうが、これは経営で言えば戦術になります。

学校におけるイジメを根本的に少なくするには、戦略と全社的な仕組み作りが必要になりますが、これがないようです。

Lanchester ランチェスター経営（株）



〒810-0012 福岡市中央区白金 1-1-8 チュリス薬院 301

TEL 092-535-3311 FAX 092-535-3200

メールアドレス customer@lanchest.co.jp HP <https://www.lanchest.com>